



樹人舎

第21号（最終号）
令和8年3月24日
神崎市立脊振中学校
文責 校長 澁谷

<学校HP>



【学校教育目標】 背振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成

【小規模特認校】 神崎市内のどこからでも通えます。

【コミュニティスクール】 「地域とともにある学校」 2年目（令和6年度～）

令和7年度修了式を行いました。

最近の春の訪れを感じさせるような温暖な気候で一気にソメイヨシノの開花が進みました。通勤途中、立ち寄った仁比山公園の桜（写真）も開花し、三分咲といった感じでした。背振のソメイヨシノの開花もまもなくというところですが、背振は平地より遅れて咲く分、少し長くピンク色の景色を楽しめるところがよいところです。本日3月24日に令和7年度の修了式を行いました。3年生が卒業し、人数としては19人となり、少し寂しくなりましたが、残った1、2年生は学校の中心としてはつらつと学習や部活動に励み、背振中を支えています。卒業生を含めて、本校生徒はこの1年間、様々な学習活動、学校行事や生徒会活動、地域行事、部活動に懸命に取り組み、成長を成し遂げました。この経験をもとに、来年もさらなる飛躍を遂げてくれるものと確信しています。4月には5名の新入生を迎える予定です。これからも本校の校訓である「和気 立志 報恩」を胸に学び続けてほしいと思っています。修了式ではこの校訓のなかの「報恩」について少しふれました。「恩」という字は原因の因の下に心と書きます。「恩」とは今の自分の置かれている状態（原因）を心から深く考えることです。いろいろな方にお世話になって今の自分があります。10代のころはまだまだ経験不足で周囲がよく見えておらず、お世話になったことを心の底から実感して、相手に感謝しその恩に報いることは難しいでしょう。また、この世の中ではお世話になった恩を返そうと思ったときに相手はもういないことが多々あります。そのような場合、この恩返しをいつの日か「恩送り」として後輩や周囲の人に返していくことが大切です。見返りを求めることなく自分が受けた恩を上乘せして他者へ送り返すことが社会をよりよくします。背振中の生徒にも、お互いを支え合い、困っている人をフォローして後輩に恩送りをしていく、そんな学校を目指してほしいと思います。



お世話になりました。転出者の紹介

人事異動のシーズンとなりました。今回の人事異動で下記の職員がこの樹人舎を去ります。

役職	氏名	教科	本校在籍	転出校
校長	澁谷 健	—	1年	三根西小
校長以外の氏名の公表はHP上では控えます。				

校長として至らないことが多々ありましたが、もう1年勤めたかったという気持ちもあります。しかし、新しい学校での新しい子どもたち、職員、地域の人々との出会いに思いをはせ、転出先の学校に赴きたいと思っています。短い間でしたが、背振中の生徒の皆さん、保護者の皆さん、そして育友会や地域の皆様には大変お世話になりました。背振中の生徒はとても温かく、親しみやすく、元気で、とてもよい中学生でした。この背振の地で学んだことを今後に生かしていければと思っています。お世話になりました。保護者の皆様、地域の皆様の本校教育へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。